

令和3年度 調布市緑の基本計画年次報告概要

本書の読み方

令和3年度の実績値。実績のない場合は「—」

計画策定時の目標指標と目標値の設定理由

【評価の基準】

- ◎: 計画どおり(計画以上に)目標を達成できた(80%以上)
- : おおむね計画を達成(50%以上80%未満)
- △: 計画達成には至らなかった(50%未満)
- : 計測・活動がなく評価ができない

指標	基準値 (令和元 (2019)年)	目標値 (令和22 (2040)年)	実績値 (令和3 (2021)年)	増減 (基準値から)	達成率	目標指標と目標値の設定理由	評価	まとめ
保存樹木の総本数 《緑と公園課》	3,353本	3,353本	3,319本	△34本	98.9%	一定の要件を満たす樹木を申請に基づき保存樹木として指定。令和元年度の保存樹木本数が3,353本であり、この本数を減らさないことを目標値とした。平成29年度:3,776本、平成30年度:3,444本、令和元年度:3,353本(枯れ、土地利用変化等による)	◎	新規指定も行っているが、土地所有者の事情による解除が多く、緑の減少が懸念される。目標値には届かないが、減少数は少ないため、緑の減少に歯止めが効いたものと考えられる。

緑の基本計画策定時の基準値

緑の基本計画策定時に掲げた目標値

基準値からの増減

目標値に対する
実績値の達成率

施策方針	施策	取組	指標	基準値 (令和元 (2019)年)	目標値 (令和22 (2040)年)	実績値 (令和3 (2021)年)	増減 (基準値から)	達成率	目標指標と目標値の設定理由	評価	まとめ
1 歩いて 行ける範 囲内での 都市公園 等の整備	1-1)質の高い公園・緑地の 適正配置と利用促進	①公園不足地域への対応 ②地域特性やニーズを踏まえた 公園・緑地の整備	公共が保全する緑の面積 《緑と公園課》	149.27ha	163ha	149.40ha	0.13ha	91.7%	調布市基本計画での「水と緑による快適空間づくり」施策におけるまちづくり指標を採用した。令和2年度における都市計画公園の優先整備区域内の公有化が全て完了することを目標値とした。	◎	指標の対象は、市や都が管理する公遊園・緑地・緑道・崖線樹林地及び民間が所有する緑地で市が補助対象としている保全地区。令和元年の基準値よりも微増した。
			市域に対する公園誘致圏のカバー率 《緑と公園課》	94.5%	95%	94.5%	0%	99.5%	借地公園(仲よし広場22箇所)の返還が生じて、公園誘致圏のカバー率は現状維持することとし、目標値を設定した。	◎	借地公園(仲よし広場22箇所)の変更等なく、公園誘致圏のカバー率は現状維持している。
			公園や遊び場に対する満足度 《緑と公園課》	65.2%	70%	66.8%	1.6%	95.4%	調布市民意識調査における調査項目を採用した。平成30年度に実施した43項目の調査で、43項目中トップ10に入るために必要な満足度として、70%を目標値として採用した。	◎	令和元年度よりも1.6ポイント上昇した。
	1-2)市民参加による公園 整備・管理の推進	①公園づくりの構想・計画段階 からの市民の参加 ②市民主体で運営する公園の モデル事業の検討	公園に関するワークショップの 参加者満足度 《緑と公園課》	—	70%	—	—	—	公園づくりに関するワークショップ、意見交換会等に参加した市民にアンケート調査を行い、公園づくりのかかわり方等を含めて「満足している」、「どちらかといえば満足している」市民の割合を指標値として採用した。新たな指標値で基準値はないことから、目標値は70%とした。	—	凸凹山児童公園周辺実施区域においての整備プラン策定に向け、市民との意見交換会を1回実施し、近隣小学校へのアンケート調査に取り組んだが、満足度についてはアンケートに含んでいない。

施策方針	施策	取組	指標	基準値 (令和元 (2019)年)	目標値 (令和22 (2040)年)	実績値 (令和3 (2021)年)	増減 (基準値から)	達成率	目標指標と目標値の設定理由	評価	まとめ
2 緑と公園の質の向上と適正な管理	2-(1)公園・緑地等の計画的な管理	①公園施設の計画的な日常点検, 定期点検の実施 ②公園施設の予防保全と事後保全 ③公園・緑地の樹木の適切な維持管理 ④市民や事業者と連携したパークマネジメントの検討	公園施設長寿命化計画に基づき更新した公園施設の割合 《緑と公園課》	2%	100%	0%	—	—	調布市公園施設長寿命化計画に基づく公園遊具の更新計画の進捗状況を指標として採用した。計画とおり更新を進めることを目標値として採用し, 100%とした。	—	遊戯施設の更新に向けた調査のみ実施した。
	2-(2)防災性を高める身近な緑の保全	①火炎・延焼の危険性が高い地域におけるオープンスペースとしての緑地の保全 ②土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊危険箇所周辺の緑の保全 ③公園における防災機能の向上 ④農地の防災機能の活用 ⑤緑の防災機能の啓発	市民と協働で保全活動を行う崖線の箇所数 《緑と公園課》	5箇所	10箇所	7箇所	2箇所	70.0%	現在, 市が管理している崖線の中で, 市民との協働で管理を行うことが可能な崖線の数から目標値を設定した。 (入間町2丁目緑地2箇所, みんなの森, 国分寺崖線保存用地, 深大寺元町特別緑地保全地区)	○	市民団体との協働による保全活動を7箇所で行い, ボランティア保険への加入, 安全講習会の実施, 活動に必要な消耗品の提供を行った。
			避難場所や避難路を示す案内板の設置した公園数 《緑と公園課》	0箇所	39箇所	0箇所	—	—	新規事業であり, 基準値は0箇所となる。 トイレのある公園(新設候補を含む)の数を目標値とした。	—	今年度は設置実績なし
	2-(3)公園・緑地等の利用の適正化	①公園・緑地の適正な利活用の推進 ②市民主体で運営する公園のモデル事業の検討【再掲】	公園や遊び場に対する満足度【再掲】 《緑と公園課》	65.2%	70%	66.8%	1.6%	95.4%	調布市民意識調査における調査項目を採用した。 平成30年度に実施した43項目の調査で, 43項目中トップ10に入るために必要な満足度として, 70%を目標値として採用した。	◎	再掲のため1-(1)参照

施策方針	施策	取組	指標	基準値 (令和元 (2019)年)	目標値 (令和22 (2040)年)	実績値 (令和3 (2021)年)	増減 (基準値から)	達成率	目標指標と目標値の設定理由	評価	まとめ
3 市を象徴する多様な水と緑の保全と活用	3-(1)民有地の緑化促進	①開発事業指導要綱による緑化の推進 ②地区計画による緑化の推進 ③調布市景観計画等による緑化の推進 ④保全地区の維持 ⑤地域性緑地制度の活用を検討	調布には優れた景観があると思う市民の割合 《都市計画課》	85.1%	90%	82.7%	△2.4%	91.9%	調布市基本計画での「良好な市街地の形成」施策における「まちづくり指標」を採用した。令和4年度の目標値90%を継続するという考え方で、目標値を設定した。	◎	景観計画区域内における届出対象となった建築・開発行為に対して、事業地周辺で見られる既存の樹種や植生を考慮し、植栽を行うようアドバイスした。
			みどり率 《緑と公園課》	34.1%	34.1%	—	—	—	緑の量の基準となる値であり、指標として採用した。 みどり率は継続的に減少しており、緑の減少傾向を緩和するという考え方もあるが、東京都の「都市づくりのランドデザイン」において「緑の総量は減らさない」としており、目標値としては現状維持とした。	—	概ね5年に1度、調査しており、今年度は実施していない。
	3-(2)崖線・樹林地・湧水などの保全と活用	①雨水浸透施設等の整備 ②崖線樹林地保全管理計画の策定や見直し ③景観形成ガイドライン(緑の景観づくり国分寺崖線)の推進 ④教育・文化資源としての崖線の活用	市民と協働で保全活動を行う崖線の箇所数【再掲】 《緑と公園課》	5箇所	10箇所	7箇所	2箇所	70.0%	現在、市が管理している崖線の中で、市民との協働で管理を行うことが可能な崖線の数から目標値を設定した。 (入間町2丁目緑地2箇所、みんなの森、国分寺崖線保存用地、深大寺元町特別緑地保全地区)	○	再掲のため2-(2)参照
			浸透施設等の設置による雨水の浸透能力 《下水道課》	102,666m ³ /h	218,300m ³ /h	118,024m ³ /h	15,358m ³ /h	54.1%	東京都豪雨対策基本方針の目標対策量(浸透量として10mm/h相当)から目標値を設定した。	○	令和3年度は民間住宅新築において宅地開発などの大型案件が少なかったこと等に伴い、浸透施設等の設置も減少したことから、雨水の浸透能力の令和3年度の増加量も、前年と比べて伸び悩んだ。(新築住宅の建設等による雨水浸透能力の単年度の増加量の実績:令和2年度実績15,226m ³ /h,令和3年度実績6,100m ³ /h)
			湧水の箇所数 《環境政策課》	29箇所 (豊水期) ※平成30 (2018)年	29箇所 (豊水期)	—	—	—	おおむね1回/3年の頻度で湧水調査を実施している。 平成30年度の調査では、豊水期29箇所、渇水期22箇所 平成26年度の調査では、豊水期27箇所、渇水期27箇所 目標値は平成30年度を維持するものとし、豊水期29箇所を設定。	—	湧水調査は概ね3年に1回調査を行っており、直近では平成30年度に実施した。令和4年度中に実施予定としている。
	3-(3)歴史・文化資源と一体となった緑の保全と活用	①歴史・文化資源と一体となった緑の保全と活用 ②天然記念物等の指定による社寺林の保全	調布には優れた景観があると思う市民の割合【再掲】 《都市計画課》	85.1%	90%	82.7%	△2.4%	91.9%	調布市基本計画での「良好な市街地の形成」施策における「まちづくり指標」を採用した。令和4年度の目標値90%を継続するという考え方で、目標値を設定した。	◎	再掲のため3-(1)参照
	3-(4)川辺の保全と活用	①良質な河川環境の保全・活用	調布には優れた景観があると思う市民の割合【再掲】 《都市計画課》	85.1%	90%	82.7%	△2.4%	91.9%	調布市基本計画での「良好な市街地の形成」施策における「まちづくり指標」を採用した。令和4年度の目標値90%を継続するという考え方で、目標値を設定した。	◎	再掲のため3-(1)参照
3-(5)都市農地の保全と多面的な活用	①営農継続への支援・検討 ②生産緑地の追加指定及び特定生産緑地の指定促進 ③市民農園・農業体験ファームの充実 ④農の風景育成地区の取組の推進 ⑤食育の推進 ⑥農の里計画の推進 ⑦都市農地の保全	みどり率【再掲】 《緑と公園課》	34.1%	34.1%	—	—	—	緑の量の基準となる値であり、指標として採用した。 みどり率は継続的に減少しており、緑の減少傾向を緩和するという考え方もあるが、東京都の「都市づくりのランドデザイン」において「緑の総量は減らさない」としており、目標値としては現状維持とした。	—	再掲のため3-(1)参照	

施策方針	施策	取組	指標	基準値 (令和元 (2019)年)	目標値 (令和22 (2040)年)	実績値 (令和3 (2021)年)	増減 (基準値から)	達成率	目標指標と目標値の設定理由	評価	まとめ
4 身近な 緑の創出 と保全	4-(1)公共施設の緑化推進	①公園の緑や街路樹の整備・保全 ②公共施設における壁面緑化の推進	公共が保全する緑の面積【再掲】 《緑と公園課》	149.27ha	163ha	149.40ha	0.13ha	91.7%	調布市基本計画での「水と緑による快適空間づくり」施策におけるまちづくり指標を採用した。令和2年度における都市計画公園の優先整備区域内の公有地化が全て完了することを目標値とした。	◎	再掲のため1-(1)参照
	4-(2)市街地・住宅地の緑化による街並み形成	①市民に活用しやすい緑化の補助等の制度の周知・活用推進 ②保存樹木・保存生垣の維持管理の支援 ③民間施設における敷地内や屋上・壁面緑化の推進 ④景観形成重点地区・景観形成推進地区における緑の街並みの形成	調布には優れた景観があると思う市民の割合【再掲】 《都市計画課》	85.1%	90%	82.7%	△2.4%	91.9%	調布市基本計画での「良好な市街地の形成」施策における「まちづくり指標」を採用した。令和4年度の目標値90%を継続するという考え方で、目標値を設定した。	◎	再掲のため3-(1)参照
	4-(3)身近な樹木・植栽の保全	①保存樹木・保存生垣の維持管理の支援【再掲】 ②景観重要樹木の指定 ③屋敷林の維持管理の支援	保存樹木の総本数 《緑と公園課》	3,353本	3,353本	3,319本	△34本	99.0%	一定の要件を満たす樹木を申請に基づき保存樹木として指定。令和元年度の保存樹木本数が3,353本であり、この本数を減らさないことを目標値とした。平成29年度:3,776本、平成30年度:3,444本、令和元年度:3,353本(枯れ、土地利用変化等による)	◎	新規指定も行っているが、土地所有者の事情による解除が多く、緑の減少が懸念される。目標値には届かないが、減少数は少ないため、緑の減少に歯止めがかかったものと考えられる。

施策方針	施策	取組	指標	基準値 (令和元 (2019)年)	目標値 (令和22 (2040)年)	実績値 (令和3 (2021)年)	増減 (基準値から)	達成率	目標指標と目標値の設定理由	評価	まとめ
5 生物多 様性に配 慮した水 と緑のまち づくり	5-(1)水と緑のネットワーク の形成	①市の緑の骨格となる崖線の保 全 ②鉄道敷地の緑道整備 ③駅周辺の花と緑のあふれる空 間づくり ④都市計画道路における街路 樹の整備と維持管理 ⑤河川・用水路の緑化 ⑥回遊性を高めるまちづくり	花いっぱい運動事業活動面 積 《緑と公園課》	2,335㎡	5,000㎡	3,676㎡	1,341㎡	73.5%	花いっぱい運動の実施面積を指 標値として採用。 高齢化等により活動団体は減少傾 向にあるが、花と緑の空間づくりを 取組として掲げており、活動面積 の倍増を目標値として設定した。	○	花いっぱい運動の団体数、面積共に順調に増 加している。目標値の達成に向け、活動団体 数、面積の維持と花いっぱい運動事業の周知 に努める。
			市民と協働で保全活動を行う 崖線の箇所数【再掲】 《緑と公園課》	5箇所	10箇所	7箇所	2箇所	70.0%	現在、市が管理している崖線の中 で、市民との協働で管理を行うこと が可能な崖線の数から目標値を設定 した。 (入間町2丁目緑地2箇所、みんな の森、国分寺崖線保存用地、深大 寺元町特別緑地保全地区)	○	再掲のため2-(2)参照
			公共が保全する緑の面積【再 掲】 《緑と公園課》	149.27ha	163ha	149.40ha	0.13ha	91.7%	調布市基本計画での「水と緑によ る快適空間づくり」施策におけるま ちづくり指標を採用した。 令和2年度における都市計画公園 の優先整備区域内の公有地化が 全て完了することを目標値とした。	◎	再掲のため1-(1)参照
	5-(2)生態系の保全と再 生	①生き物の生息空間の保全・創 出 ②継続的な生態系の観測調査	自然環境調査の実施回数 《環境政策課》	23回 ※平成28年 度～令和元 年度の累計	156回	32回 ※平成28年 度～令和3年 度の累計	9回	20.5%	自然環境調査は、概ね3年に1回 開催している湧水調査、自然環境 調査を兼ねて行う環境モニター活 動、水生生物調査の実施回数。 目標値は、令和元年の実績値23 回に加え、(自然環境調査5回+ 水生生物調査1回)×21年+湧水 調査7回として設定した。	△	多摩川、野川及び仙川、並びに佐須の用水に おいて、底生生物、付着藻類の調査を実施し、 野川及び仙川において、魚類調査を実施した (1回)。 湧水調査は概ね3年に1回調査を行っており、令 和4年度中に実施予定としている。 調布市環境モニター活動において、植物調査 等を実施した(5回)。今後も定点観察を取り入 れた植物調査を継続するなど、調査内容の充 実を図る。平成28年度から令和3年度までの延 べ実績数は32回
	5-(3)緑資源を生かした循 環型社会の形成	①緑資源の再利用の推進 ②環境学習の推進 ③食育の推進【再掲】	自然体験学習の参加者人数 《環境政策課》	5,032人 ※平成28年 度～令和元 年度の累計	19,000人	9,980人 ※平成28年 度～令和3年 度の累計	4,948人	52.5%	子どもエコクラブ、水辺の楽校、雑 木林ボランティア講座、神代農場 公開講座、多摩川自然情報館月 別イベントの合計を計上。 目標値は、5032+660人/年×21年 =18,892≒19,000人として設定し た。	○	調布子どもエコクラブ(計7回・140人)、雑木林ボ ランティア講座(計6回・77人)、多摩川自然情報 館月別イベント(計9回・138人)、深大寺・佐須 地域の公有地における環境学習(延べ参加人 数2,251人)への参加があった。 今後も市民要望に応える目的から、アンケート 結果等を体験学習内容に反映し、市ホーム ページなどの広報活動に努めていく。 なお、新型コロナウイルスの影響に伴い、調布 水辺の楽校、神代農場公開講座、多摩川自然 情報館月別イベントの一部を中止した。平成 28年度から令和3年度までの延べ実績数は 9,980人

施策方針	施策	取組	指標	基準値 (令和元 (2019)年)	目標値 (令和22 (2040)年)	実績値 (令和3 (2021)年)	増減 (基準値から)	達成率	目標指標と目標値の設定理由	評価	まとめ
6 協働による緑のまちづくりの推進	6-(1)市民・事業者・行政の協働による緑化活動の推進	①緑化技術に関する公開講座の開催 ②緑化保全活動への支援 ③アダプト制度の検討 ④市民・団体・行政間の情報共有・意見交換の機会の創出 ⑤市民の緑化活動を総合定期的にサポートする仕組みの検討	公遊園等清掃協力団体数 《緑と公園課》	20団体	40団体	23団体	3団体	57.5%	「調布市公遊園等清掃協力者謝礼金交付要領」により実施。緑化活動への支援やアダプト制度等の新たな仕組みの活用により、協力団体数を倍増することを目標値として設定した。 平成29年度:21団体, 平成30年度:22団体, 令和元年度:20団体	△	少しずつではあるが、活動団体も増えている。今後も活動団体数の維持と増加に努める。
			市民と協働で保全活動を行う崖線の箇所数【再掲】 《緑と公園課》	5箇所	10箇所	7箇所	2箇所	70.0%	現在、市が管理している崖線の中で、市民との協働で管理を行うことが可能な崖線の数から目標値を設定した。 (入間町2丁目緑地2箇所, みんなの森, 国分寺崖線保存用地, 深大寺元町特別緑地保全地区)	○	再掲のため2-(2)参照
			緑化活動参加者の割合 《緑と公園課》	50.6%	60%	—	—	—	令和元年に実施した調布市の緑に関する市民アンケート調査において「緑を守り育てていくために、現在参加している活動」に参加している人の割合50.6%を基準値とした。 施策の実施により10%の増加を目標とする。 (237,506人×0.1≒23,700人の緑化活動参加者を増やす)	—	令和3年度はアンケート未実施のため、緑化活動参加者の割合ははかれない。
	6-(2)水と緑をそだてる意識づくり	①市民が一体感を感じる緑化イベントの開催 ②環境学習の推進【再掲】 ③食育の推進【再掲】	緑化活動参加者の割合【再掲】 《緑と公園課》	50.6%	60%	—	—	—	令和元年に実施した調布市の緑に関する市民アンケート調査において「緑を守り育てていくために、現在参加している活動」に参加している人の割合50.6%を基準値とした。 施策の実施により10%の増加を目標とする。 (237,506人×0.1≒23,700人の緑化活動参加者を増やす)	—	再掲のため6-(1)参照
			緑に関する満足度 《緑と公園課》	69.3%	80%	—	—	—	令和元年に実施した調布市の緑に関する市民アンケート調査において「調布市の緑についてどう思いますか」に対し、大変満足、どちらかというと満足の割合69.3%を基準値とした。 施策の実施により10%の増加を目標とする。	—	令和3年度はアンケート未実施のため、満足度ははかれない。